

11月26日(木)

## 女性部（鷹巣支部）冬期講座 心を届ける『絵手紙づくり』

11月26日、女性部の恒例行事『冬期講座』が本店会議室で開かれ、鷹巣支部の部員10人が参加しました。同JA女性部では毎年、各支部が冬期講座で多種多様な講座を行い、部員相互の交流を図っています。

この日は、県北地区で絵手紙教室を開く佐々木笑美子さんを講師に招き、季節の野菜や果物などを題材にした絵手紙に挑戦しました。

佐々木さんは「うまく描こうとせず心をこめて描くことが大切です。そうすれば相手にも気持ちが伝わります」とアドバイスし、他の方々が描いた絵手紙を紹介。部員の皆さんも新聞紙に文字や絵を練習した後、柿やしいたげ、落葉など持ち寄った素材で作品作りを開始。筆の持ち方や色の塗り方などを互いに確認し合いながら、さまざまなデザインの絵手紙を作り上げました。部員は「絵手紙を描くのは初めてだったけど、とても楽しかった」「ずっと見てられる。相手の気持ちが伝わってくるようだ」と話していました。



12月4日(金)

## 女性部 JA 役職員と語る会

女性部は12月4日、部員が日ごろ感じていることを直接役員に伝え、組織運営に役立てようと、本店で「JA 役職員と語る会」を開きました。同会は毎年行われており、各支部の代表者とJA 役職員29人が参加しました。

冒頭で小笠原組会長は「今日は女性部の皆さんと有意義な意見交換をして、今後のJAの在り方について一緒に考えていきたい」とあいさつ。続いて長崎久美子部長が「今日の語る会をきっかけに互いにJA事業を盛り上げていきたい」と述べました。

語る会では、各支部で取りまとめたJA事業に関する意見や要望を「現場の声・女性の声」として伝えました。部員からは「営農指導にもっと力を入れてほしい」「生産者が利用できる加工所を作ってほしい」「移動店舗販売など生産者の購買意欲に結びつくことを一緒に考えたい」などの要望も出され、今後のJA運営、女性部活動に反映させようと役職員と活発な意見交換を行いました。

参加した部員は「日頃から思っていることをじっくり語り合うことができとても有意義だった」と話しました。

